

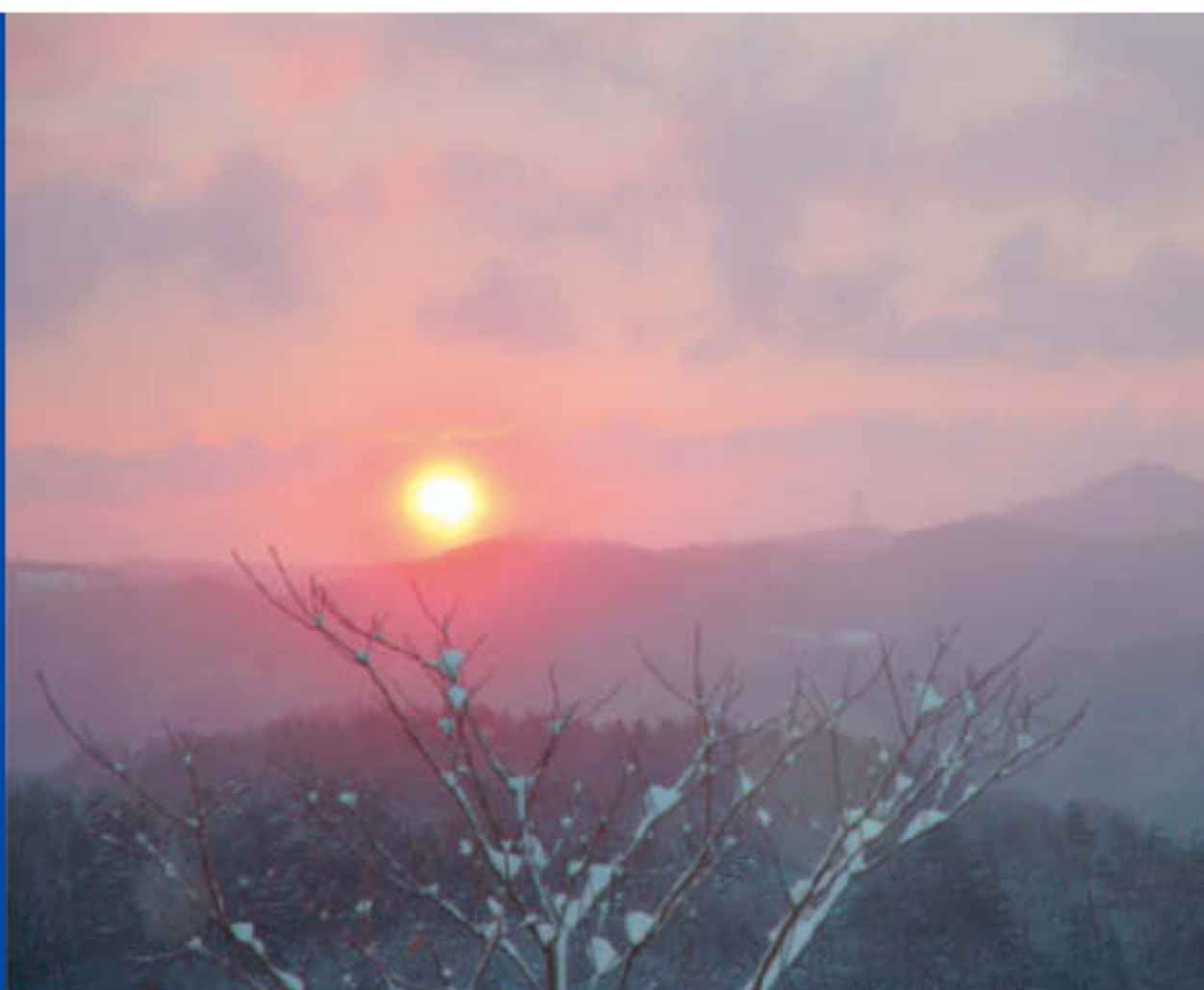
# みんなの 町議会

第13号

2008年1月

 神石高原町

議員定数、14名に決まる



初日の出(小野・雙岩山山頂から)

ふれあい事業基金に5,184万円 .....	2
水源の里条例を(一般質問) .....	4
先進地を視察(常任委員会報告) .....	10
田舎応援団「あるぎ倶楽部」 .....	12

# 1億2,633万円の (一般会計)補正予算を可決

## 12月定例会

12月定例会は、12月17日に招集され、25日までの会期で開かれました。

今回の定例会(第6回)では、神石高原町農業委員会委員の推薦をはじめ、神石高原町教育委員会委員の任命の同意、平成19年度一般会計・特別会計補正予算(12月補正)、神石高原町議会の議員の定数を定める条例の制定についての発議、原爆症認定制度に係る問題の早期解決を求める意見書など31案件をすべて原案どおり可決・承認しました。

一般質問では、11名の議員が当面する行政課題をただしました。

ふるさとふれあい事業基金に、

5,184万円を積立

12月臨時会は、12月7日に開かれ、人事院勧告に基づく職員給与の改正、介護保険特別会計補正予算など審議し原案通り可決しました。

平成19年度12月定例会・補正予算は別表のとおりですが、一般会計で1億2,633万円、特別会計で、1億4,847万円増額され、それぞれ102億512万円、66億9,445万円となりました。

主なものは、一般会計で障害者介護給付・訓練給付事業に利用者増加により1,420万

円、ふるさとふれあい事業の基金積立に5,184万円、特別会計では退職被保険者高額医療費1,762万円、などそれぞれ追加補正されました。また、簡易水道特別会計、飲料水供給特別会計、農業集落排水特別会計に消費税の還付金があり、合わせて914万円が一般会計に繰り入れられました。また、簡易水道事業債1億3,620万円が借り換えされました。この借り換えにより2,387万円の利息が節減される予定です。

## 平成19年度12月補正予算明細票

### 12月補正予算

(単位：万円)

会計名	補正前予算額	12月補正額	補正後の額
一般会計	100億7,879	1億2,633	102億512
国民健康保険特別会計	14億5,752	1,712	14億7,464
老人保健特別会計	25億7,448		25億7,448
介護保険特別会計	16億7,770	▲1,295	16億6,475
簡易水道事業特別会計	5億4,881	1億3,679	6億8,560
飲料水供給施設事業特別会計	3,544	15	3,559
農業集落排水事業特別会計	2億5,193	736	2億5,929
分収育林事業特別会計	10		10
合計	166億2,477	2億7,480	168億9,957



答弁する牧野町長

# 新年のご挨拶



神石高原町議会 議長

岡崎 実

新年明けましておめでとございます。  
みなさん、ご家族おそろいでよいお正月をお迎えのこと  
と、心からおよろこび申し上げます。

日頃から神石高原町議会にご支援ご協力を賜り厚くお礼  
申し上げます。

神石高原町も4度目の新春を迎えることができました。  
本年の11月に行なわれる町議会議員選挙の定数について  
1年間協議し、昨年12月定例議会で議員定数を4名減の  
14名と決定いたしました。合併後、新町も常に財政難につ  
きまどわれる中での議決でした。

なにとぞご理解いただきたいと思えます。

歴史上にも類をみない「少子高齢化社会」が歯止めなく  
進行して行く状況のなかで「資本主義経済」の高速回転で  
「格差」の急激な拡大など、多くの課題を越年しました。

高齢化社会での県立病院の存続、少子化での学校再編の  
検討、集落法人の設立による農業の復活、井関地域定住回  
地整備事業、等々の課題に建前論ではなく本音の議論を交  
わして、新町建設のために、託していただいたこの1年に  
全力で努力を続ける決意であります。

どうか今年1年、一層のご指導ご協力をいただきますと  
ともに、みなさまのご多幸を心からお祈り申し上げ新年の  
ごあいさつといたします。

条例改正・補正予算

# こんなことが **決** まりました

(敬称は省略させていただきます)

農業委員会委員に  
小坂大輔(有木)を議会推薦

教育委員に  
高崎みどり(笹尾)を再任

固定資産評価審査委員の  
選任に同意

- ・宇賀拓郎(油木)
- ・黒川勝(古川)
- ・江草忠行(下豊松)
- ・川上忠義(井関)

人権擁護委員に  
赤木千恵子(下豊松)を推薦

## 議員定数が14に決まる

賛成 16 反対 1

議員定数を現行の18から14にする  
議員提案の条例案が  
**賛成多数で可決**

提案者 藤田 晃己 議員 賛成者 松本 彰夫 議員

### 提案理由

合併後3年が経過、公債費比率は18.9%から21%へ  
さらに悪化した。

国の三位一体改革による地方交付税の減少や補助金・  
交付金が縮減。議員自らが身を削り、持続可能な行財政  
運営がなされることを願う。

# あなたの声を 町政に

## 一般質問

1問1答方式で行いました。  
質問時間は1人30分です



水源の里 連絡協議会総会

### 問 「水源の里条例」の制定を

### 答 条例制定を検討

ある。

**Q** 人口の半数が65歳以上の高齢者で、地域活動が困難な、存続の危機にあるといわれる「限界集落」は、全国で3,000以上あるといわれ、本町でも66集落も

ある。私は去る10月、「全国水源の里シンポジウム」に参加した。全国の現況や各地の取り組みについての報告、今後の活動などが議論された。国、県

に水源の里の振興と発展のための政策展開を要請、支援の呼びかけをするため、「全国水源の里連絡協議会」を設立しようとの協議が整い、11月30日に本町からも出席



赤木健二議員

して結成総会が開催された。綾部市では「水源の里条例」を制定し、その振興と再生に動いている。日光市や上越市でも、調査や対策費を計上して対策の検討を始めている。本町は、全国でも有数の「水源の里」を持った自治体だといえる。早急に集落の詳細な実態を調

**A** 町長 「上流は下流を思い、下流は上流に感謝する」という理念と、「限界集落を「水源の里」と表現することに賛同する。」

本町の限界集落の率は30・3%と高く、調査とあわせて、まず限界集落を「水源の里」と呼び、人間生活の原点としての展望を、住民に啓発することから始めたい。将来は「神石高原町水源の里維持再生条例（仮称）」を制定したい。

## 問 ケーブルテレビの整備は

### 答 困難だが前向きに検討

**Q** 高度情報化社会に対応する「地デジ対策」と、「高速インターネット整備」にはCATV（ケーブルテレビ）しかないと思うが。

**A** 町長 地デジ対策としては通信衛星があるが、CATVは試算で50億近く事

業費が必要で、夢は捨てないが、今の財政状況では不可能に近い。前向きに検討する。

**Q** 教育の町としての特徴をだせ。全国学力テストの公表を行い地域全体の課題として取り組み。

**A** 教育長 文部科学省の通知により各学校の公表はしない。小学校は国語・算数ともに広島県平均を上回る。中学校は国語・数学の平均で県平均を上回っている。基礎基本の学力はついていないが、思考力・応用力が課題。今



木野山孝志議員

後さらに学力向上に努める。

**A** 町長 年4回位の読書週間をつくり「教養立町神石高原」を提唱したい。

**Q** 健康な生活環境整備を目的として「芝生の町」をめざしたらどうか。

**A** 教育長 芝生は環境面、スポーツ面で多くの効果がある。維持管理に住民の協力

を含め協議・検討する。

**Q** ふれあい予算の減額計画が変らなければ、充実した事業を継続実施するために、別の補助体制の確保をすべきでは。

**A** 町長 ふれあい予算は、わが町だけの自慢できる予算だが資沢な予算でもある。減額はしても継続するので理解して欲しい。



さんわふるさとフェア

## 問 来年度の公民館活動は

### 答 体制の充実を検討

**Q** 来年度から各地区にある分館を廃止する計画だが、地域の活動は保障できるのか。

**A** 教育長 自治振興会・支所との連携を深め、各地域で自立した活動を行ってもらう。

**Q** 人的な支援は。

**A** 教育長 切り離すのではなく、大きい範囲で連携を取りながら体制を充実して進める。

**A** 教育長 来年度は廃止の方向だが、町長とも協議して、自治振興会への支援などを検討する。

**Q** 地域公民館の性格は、社会教育を主とした公民館なのか。



松本彰夫議員

**A** 教育長 自治振興会が主導となつた自治会館として進める。

**Q** 福山の「まるごと市場」は土地の契約更改が迫るがどうするか。

**A** 町長 引き続き契約したいが、10年の契約は長いので5年で切り替えるようにしたい。

**Q** 「まるごと市場」の副店長が不在だが、補充は。

**A** 町長 不在のまま何とか乗り切れると言う考えもあったが、今後、店長と協議して決める。

**Q** 各出荷協議会の連絡協議会の組織化は、産業課長

**A** 充分機能していないので、ブランド認証協議会の組織を改組して充実させたい。



小野地域敬老会



三和駅伝大会

## 問 広島牛改良センターの譲渡は

### 答 無償で譲渡の予定

**Q** 町は跡地を無償で譲渡するよう県に要請しているが、状況は。

**A** 町長 平成20年4月1日に庄原に統合。大正5年3月30日に油木種畜場として設立。油木村議会で議決。総事業費は8,072円60銭、県が3,000円、

油木が4,972円60銭。郡役所が100円だった。移管する資産を見積もり按分すると県の出し分37%、油木が63%である。確約は出来ないが、おおむね無償で譲渡の予定だ。

**Q** 和牛改良組合は「神石高原町和牛の里」づくり事業へ行政の強力な指導を期待している。町の方針は。

**A** 町長 改良組合（参加者7名）と全農広島で350頭の繁殖牛を飼育する「和牛の里」づくりに取り組み、民間の管理組合に指定管理者として委託する。



村上克朗議員

**Q** 農業体験学習の受入は、できる範囲内で前向きに検討すると答弁されているが、その後の対応は。

**A** 町長 国の政策を調査しているが、国も大まかな方針だけで、農家の受入インストラクター、コーディネーター、などの組織作りができていないことが条件である。膨大な事業であり、即本町に取り入れるには困難である。

**Q** 農業指導者（講師）はシルバー人材センター。研修場所は、仙養ヶ原のまきばの夢工房・高蓋の研修センター・神石永野村・豊松の仁香川ビレッジなど受入施設がある。地域が元気になり、増収が期待できるので検討を。

**A** 企画課長 県では「やまなみ大」が7箇所あり、それを母体に広域で受入を考えているようなので、これから検討する。



広島牛改良センター（油木）

## 問 人件費削減を加速せよ

### 答 改革プランを実行する

**Q** 財政健全化の核は経常一般財源の確保であり、人件費の抑制は避けておれない最重要課題である。

**A** 町長 合併しない町村の涙くましい努力に比べ「ぬるま湯」的な対応ではないか。避けておる気持は

ない。集中改革プランの目標値を目指して努力する。

**Q** 賃金も人件費と認識され、その半減を確約されたが全くできていない。新年度へ向けての決意は。

**A** 町長 前年度の実績を上限値ととらえ、削減に努力する。

**Q** 三和小学校建設は長期総合計画にない。どう対応するのか。

**A** 町長 大規模改造、耐震工



瀬尾征爾議員

事計画があり、その事業費は建設費に匹敵する。小中一貫教育を目指した立地にすれば建設可能である。

**Q** 12月が終ろうとしている現在、森林事業の進捗が見られない。町長の監督責任が問われるが。

**A** 町長 遅れていることは申

し訳ないと思っっているが、一部制度が変わり、その手続きをしている。

**Q** 特にハード事業面では本庁の事業掌握権が強く、支所不要論の声もある。支所機能を充実すべきではないか。

**A** 町長 副町長をトップとして本・支所機能を見直し、住民の期待に応えたい。

## 問 生活交通の再構築を

### 答 「公共交通会議」を立ち上げ検討

**Q** 本町は今年度から高齢者向け交通確保対策事業として、おでかけタクシーを定着させた。路線バスは、利用者の減少で廃止される路線も生じている。廃止されないが、18年度の場合5,700万円もの多額の赤字補填で、運行をし

ている。利用者が少ないからと云って廃止することは行政がやってはならないことである。誰が考えても赤字補填してまで、大型バスで空気を運ぶ余裕の財政ではない。小型車対応など財政負担を軽減し、ロスを縮減する方法

はある。周辺・中心地域を問わず必要であり、こまめな全住民向けの生活交通機構に1日も早く見直すべきである。国・県も特に中山間地域を対象に補助拡大を検討するとしている。この際、支援を有効活用すべきでは。



小林 貢議員

**A** 町長 県は路線バスについて、19年度から新たな生活交通の再編を支援するとしている。おでかけタクシーは年齢制限を撤廃すれば、国・県の補助対象となる。国・県の支援もあり、方向性とすれば路線バスは廃止、単独で現補助金の限度内でデマンド型交通が考えられる。「神石高原町地域公共交通会議」を立ち上げ総合的に検討する。



神石ふれあい祭り

## 問 残り1年の重点施策は？

### 答 重点課題に道筋をつけたい

**Q** 「財政改革なくして新町の発展はない」を合言葉に「集中と選択」の施策を果敢に推進された。議会に対する説明・情報提供も丁寧なされ、時として、議会軽視ともとれる場面もあったが、総じて、その職責をよく果

たされてきたと思う。初代町長として、残された任期1年で「これだけは是非ともやり遂げたい」と考えられていることは、

**A** 町長 あと1年でやり遂げる、とまではいかないが、次の点について道筋はつ



片山元八郎議員

けたいと考える。①町のさらなる一体化を図る。口で言う程たやすくはないが、連帯意識の向上に努める。②県立神石三和病院の存続に向け、形態を変えてでも、病院機能の継続を図るため、間違いのない選択をしたい。

③和牛改良センターの跡地利用を考える。350頭の繁殖牛を確保し、「神石牛」ブランドを創出したい。④井関定住団地の促進を図り、人口減少の歯止めにした。3年間の実績を7割方評価して頂きありがたい。議会軽視とは、さらさら考えていない。気合いが入り、興奮すると、言葉が荒くなることがあった。



おでかけタクシー

## 問 学校再配置方針の修正を

### 答 地域・保護者の意見を聞く

**Q** 再配置より、通学区の再編を先に考えるべきでは。

**A** 教育長

通学手段、学校編成の見直し、また一部地域の児童生徒を対象とするなど影響がある。

通学時間の関係から距離型による通学区の導

入について、学校再編に合わせ地域・保護者の考えを聞き検討する。

**Q** 来見小学校は、民間の住宅地の開発により生徒も微増の状況にある。

井関定住団地の販売を進める上にも統合の撤回

を求める。

**A** 教育長

来見小学校については井関定住団地の開発もあり保護者・地域の考えを取り入れていく。

**Q** 井関定住団地の販売に関する特典・助成策は。

**A** 町長  
早期完売を目指しており、町有林の木材使用、地元業者での建築など考えている。

**Q** 販売促進策として次の提案はどうか。

- ① 買い戻し特約をつける。
- ② 町内の人への販売も対象とする。
- ③ 団地内へ町営住宅を建設しては。

- ④ 早期契約者に
- ⑤ 固定資産税相当額の助成。
- ⑥ (ロ) 住宅取得資金の利子助成。
- ⑦ (ハ) 引越し費用の助成。
- ⑧ 有休農地の貸付、農業指導。
- ⑨ 墓地用地の貸付又は提供。

**A** 町長  
充分検討したい。



藤田晃己議員

## 問 中山間地対策、県への要望は

### 答 限界集落対策を要望

**Q** 広島県は、来年度予算編成に当たり集中と選択のもと、中山間過疎地域対策、次世代人材育成対策、都市の中核拠点性の向上への重点予算配分をするとの考えを明らかにした。

本年10月1日には、広島県新過疎対策推進プロ

ジェクトチームが設置され中山間地の集落を視察し、住民や市町職員から聞き取り調査し中間報告をまとめた。わが町も合併当初にまして新たな諸問題の発生により、地域社会機能の維持が困難となり、諸問題解決に対する財政支援が不可欠と

なっている。神石高原町は何を要望し県の支援は何かがあり来年度予算へどう反映されるのか。

**A** 町長  
ねじれ国会をうけての動きと受け止めている。中山間地域に対し当たりの良い発言にすぎない



小川清治議員

いと受け止めている。12月20日県が聞き取り調査に来町する。本町として、限界集落対策問題を要望する。但し、今回の支援はソフト事業だと聞いている。

**Q** 来年度予算に反映できるところは、現状を訴え、確かな支援をいただけるよう要望活動をお願いする。

を



どんぐり幼稚園運動会



桑木営農組合



## 問 小・中学校統合計画の撤回を

### 答 地域の声を聞き検討

**Q** 神石小・中学校とも統合を前提としての答申が出されたが、その必要は無く、計画の撤回を求める。  
給食施設は老朽化が進んでいる。

では、

**A** 教育長  
基本方針では、通学時間が一部1時間をこえる所もある。神石中は生徒減少傾向にあり、クラブ活動に支障をきたす。いずれも統合については地域、保護者の声を聞き検討したい。

**Q** 給食は三和調理場から運搬する場合と神石小、中共同の施設整備をした場合とのメリット、デメリットを調査し検討したい。

**A** 町長  
県へ要望しているが財政面から先送りになっている。町へ払い下げても建設計画には他の路線も多くあり、完了はままならない。即計画にあげるのも問題があり、しばらくお待ちいただきたい。



久保田龍泉議員

**Q** ふれあいまつりは、ふるさとふれあい事業費ではなく、本予算で事業費を確保し継続すべきだ。



神石小学校

## 問 「寄附条例」の導入を

### 答 前向きに検討する

**Q** 自主財源確保と、住民参加型の協働のまちづくりのため、「寄附条例」を導入すべきでは。

**A** 町長  
国において、地方と

都市との格差是正のため、税制改正の論議がなされているが、地方の財

源にとって追い風となるかどうか定かではない。「寄附条例」導入は、時期尚早かと思えるが、確かにまちのPRになる良い提案なので今後前向きに検討する。

**Q** 本町のいじめ問題への認識と対応は、

**A** 教育長  
学校では全児童・生徒へのアンケート調査と個人面談を実施し、いじめの早期発見と指導の充実に努めている。

未然防止のための指導、豊かな心をはぐくむ道徳教育の充実などで、早期発見・迅速な対応ができ



寄定秀幸議員

**Q** 妊産婦健診の公費助成回数増やすべきでは。

**A** 保健課長  
発達障害は、3歳までにほぼ把握しているが、発達相談に来られないので、来ていたけりよう再三お願いしている。「のびのび教室」も年12回実施し、発達相談もその都度行い、きめ細かな療育に努めている。

**Q** 軽度発達障害の早期発見のため、5歳児健診を設けるべきでは。

# 委員会報告

## 「隠岐潮風ファーム」を視察

産業建設常任委員会

産業建設常任委員会は10月12日に、島根県海士町にある「隠岐潮風ファーム」の視察を行いました。これは、建設業である「飯古建設」が、公共事業が減少する中で、異業種である畜産に取り組み成果を上げていく会社です。

### 経営の内容

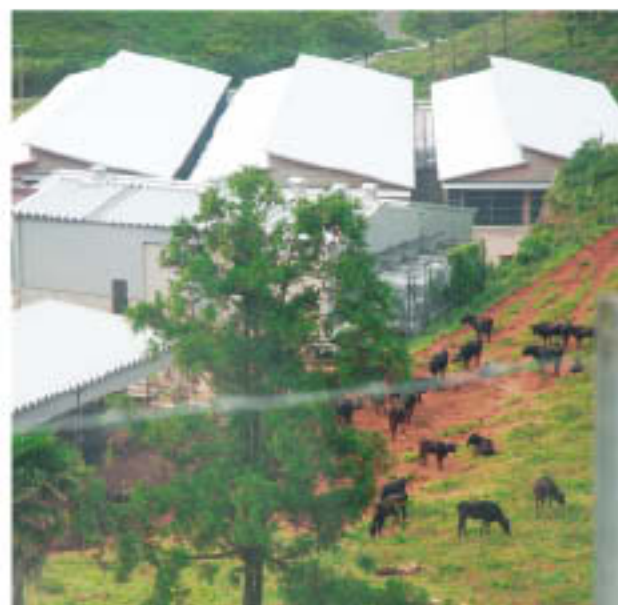
離島のハンディ克服のため、市場性の高い若齢雌牛の肥育を行い、市場価格の高い東京市場に出荷。

### 隠岐牛のブランド化

「島生まれ・島育ち・隠岐牛」として売り出し「島根和牛」から「隠岐牛」のブランドとして売り出す事に成功。

### 会社のこだわり

- ・粗飼料は地元産のわらを使用
- ・隠岐生まれ・隠岐育ちの雌牛を肥育。



隠岐潮風ファーム

- ・隠岐で生まれる雌牛、500頭のうち130頭を購入、「隠岐全体の牛が増えないと、会社の牛も増えない。」と、隠岐全体の畜産振興に貢献。
- ・売り上げ  
18年度 1億円  
19年度 1億3千万円  
毎月10頭の出荷体制を

- ・確立。見習う点
- ・ハンディを逆手にとる発想
- ・地域を支える意識
- ・1ターンの増加
- ・入れ態勢の充実
- ・異業種からの出資
- ・金力・人材・発想の転換など。

## 品川区立小中一貫校「伊藤学園」を視察

福祉文教常任委員会

福祉文教常任委員会は、10月23日、東京都の伊藤学園を訪問した。

小学校1年生から中学3年生までの886名が、同じ校舎で学習している。

説明や校舎見学で、特に印象に残ったこと。

- ①品川区立38の小学校すべて、教科担任制を実施。
- ②校長の予算ヒヤリングを実施。経営方針、教育活動の成果などを聞き、校長裁量のプラス、α予算を講じている。
- ③外部評価者制度を導入し、より客観性のある学校評価に努めている。
- ④学校の良い所も悪い所も、保護者・地域に徹底した情報開示を実施。



小中一貫校「伊藤学園」

⑤品川区立全小・中学校（58校）で、平成18年度から小中一貫教育に取り組んでいる。

⑥同一校舎内で、小学生と中学生が一緒に学習するため、中学生による非行がほとんどない。

総務企画常任委員会は定住団地の開発販売と空き家バンク事業、新規就農者支援、観光開発事業について大分県豊後高田市を視察した。

①豊後高田市の「三友団地」、「フラインヒル北田団地」、「御所園分譲団地」の計3カ所を視

察。販売実績は、条件のよい1団地は20〜30歳代の若者を中心にすでに完売。あとの2団地は交通条件があまりよくなく、2〜9カ所が残っている。

定住支援策は、ホームページを開設し「住む情報」、「農業情報」、「就

労情報」、「お役立ち情報」、「移住者の体験談」などを提供している。

②空き家の有効活用は、空き家バンク登録申込書により、情報発信をしている。現在利用者は34組85名。市は仲介のみ。

③農業を始めるために、里親農家研修があり、栽培方法や経営管理について農家で実地に学ぶ制度である。

◎研修期間6カ月以上、研修費は無料  
◎食費や交通費などは自己負担

④観光開発事業の「昭和の町」づくりは昭和30年代の賑わいを再びよみがえらせようと、平成13年に着手した町づくりです。各店は、一店一宝として「昭和の品」をかざり平日でも、多くの観光客であふれていました。成功例のひとつと思います。



豊後高田市「昭和の町」

## 臨時議会 (12月7日)

### 職員給与の改定 (人事院勧告による)

- ・初任給を中心に若年層に限定した改定(中高齢層は据置き)  
初任給 一般行政職  
大卒 172,200円(170,200円)  
高卒 140,100円(138,400円)  
( )は改定前

- ・扶養手当  
6,000円を6,500円に引き上げ
- ・期末、勤勉手当  
4.45カ月を4.5カ月分に引き上げ

引き上げに伴う財源  
**536万円**

## 採択された意見書

議員提案の2案件の意見書は、ともに全会一致で可決しました。

### 原爆症認定制度に係る問題の

### 早期解決を求める意見書

提案者 松本彰 夫議員  
賛成者 赤木健二議員

### 道路特定財源諸税における 暫定税率等の延長に関する意見書

提案者 小川清 治議員  
賛成者 松本彰 夫議員

# 元気な グループ紹介



## 一緒に汗

（田舎応援団「あるぎ倶楽部」）



草刈り作業

有木自治振興会は、自分たちの地域は自分たちで創る、地域の支えあい、助け合いの絆を強くする」を掲げ、平成16年に設立しました。平成18年度からは、会の事業のひとつに「都市農村交流」農業ボランティアを活用した地域づくりとして田舎応援団「あるぎ倶楽部」を結成しました。

この取り組みは、中山間地域の人口減少と高齢化による担い手不足など、地域が抱える課題の解決策の一つとして、都市の力を借りて、古里の維持を目指すもので、野菜栽培、自然保全や山村との交流に関心のある都市住民を募り、年間を通じて活動をするものです。昨年度は、福山市・尾道市など近隣の都市住民20歳から60歳代の18人、本年度17人の登録会員があり、地域住民と連携し、地区内の道路・河川の清掃活動を行ったり、遊休農地を活用した農作物栽培体験や、地域との親睦行事への参加など幅広く

活動しています。活動を振り返ってあるぎ倶楽部員は初めての体験で、農作業の大変さと収穫の喜びを、体をおとして感じる貴重な体験となっています。地域の清掃作業や地元の仕事などにも参加しています。

この活動は、都市部から来た会員だけの活動ではなく、地元の方や会員同士の交流もあり有意義な活動で、今後輪が広がればと思います。

田舎応援団  
「あるぎ倶楽部」  
団長／過田悟（福山市）



交流稲刈り体験

## 編集後記

合併して3年、国の三位一体改革による厳しい財政状況の中、神石高原町は一人と自然が輝く町づくり」にむけて取り組んでいます。本町の一大プロジェクト「井関地域定住団地整備事業」は、元気なま

ちづくり有責任事業組合」により施行できることを、町民の皆さんの理解・協力によるものだと敬意を表します。「限界集落」の増加するなか、集落営農・法人化・認定農業者の育成ができる、輝かしい年になりますよう折念いたします。  
(大)